



在京古高同窓会会報 第22号

〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂1-15-3  
ブリメーラ道玄坂110号  
信陵会館内  
在京古高同窓会事務局  
☎ (03) 3462-1225  
FAX (03) 5489-1358  
発行責任: 佐藤 廣  
編集責任: 萩沢 法雄  
編集長: 千坂 孝夫  
印刷: (株)ケーヨー



挨拶

会長 伊藤 宗一郎

在京同窓生の皆様には恙なく新年を迎えられ何よりと存じます。日頃会員の皆様には同窓会活動にご協力頂き有難く厚くお礼を申し上げます。次第であります。

さて、母校の創立百周年記念事業としての、「文化部活動センター」が皆さんの協力により、12月に竣工致しました。名前も「凌雲文化センター」と決まり、大崎文化の発信拠点として位置づけたい。これからはいよいよ後輩在校生による「中味の充実」を期待するものであります。

同窓会活動としては、東京江戸を見て歩こう会や古川4校対抗ゴルフ大会を開催、多数の参加を頂

お知らせ

第6回古川市内四校合同新年会

- 日時:平成11年1月31日(日) 12:30~16:00
- 会場:上野精養軒
- 会費:8,000円
- 特別講演:元巨人軍 柴田 勲氏
- 交通案内:上野駅公園口より徒歩5分



上野公園4番58号 電話(3821)2181

上野は東京・青春の門  
大いに飲み、語り合いましょ！  
“古川米”をはじめ物産の販売も行います。

今年には卯歳にちなみ、飛躍の年でもあります。会員皆様の益々のご健勝とご発展を祈念申し上げます。年頭の挨拶と致します。

迷で、生活不安が広がって来ております。今後も益々相互の親睦を深め、支え合って参りたいものと存じます。

き好評、今後も引き続き開催の要望が有り、一人でも多くの参加を期待するものであります。今年の古川市内高校合同新年会は6回目を数えて、昨年と同じ会場の上野精養軒で1月31日(日)に開催を予定しております。是非ご出席頂きたいと存じます。

在京古高同窓会の皆様、明けましておめでとうございます。お健やかに巳卯歳の新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。皆様に多大な御協賛を頂いてまいりました、創立百周年記念事業も別項の紹介のとおり、この度の文化部活動センターの落成で概ね終了することになりました。別項に簡単な決算表を掲載しました。



ご挨拶  
学校長 久保田 齊

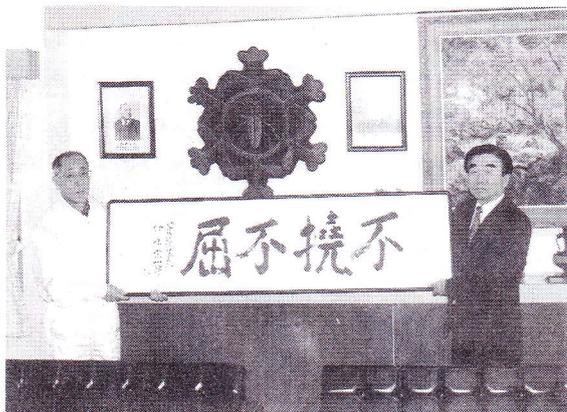
在京同窓会メモ

- ・信陵会館は井の頭線渋谷駅線路沿いです。
- ・佐藤事務局長は平日午後から常駐しています。
- ・会計年度は6-5月、年会費は一口2000円、何口かお願いできればありがたく存じます。
- ・会運営のため、同封の振替用紙での納入をお願いしております。
- ・次回会報第23号は7月1日発行予定です。原稿、広告おまちしております。

二、三の例をあげますと、中学生向けに一日体験入学や学校案内パンフ作成、課外授業、夏季・冬季講座、夏休み学習会、大学見学会、カリキュラムの改善等々です。これも本校を支える先生方に、良いものはまず実

そんな中で、ここ数年來品格・実力を兼ね備えた「文武両道」の再生を目指して改革に取り組んでいるところです。とりわけ地域の皆様や先輩諸兄の関心の高い大学進学率は、本校にとって焦眉の急と認識し、その成果が目に見える工夫と努力が必要と三年間を通じた組織的な取り組みを確認したところで

当に有り難うございました。さて、かつて「大崎大学」の名を頂き、あこがれの学び舎であった古川高校ですが、百年の歳月の中で制度疲労と最近の少子化や仙台への一極集中、それに加え私学の攻勢等々で、多少の息切れを起し気味だったことは残念ながら否定できません。



伊藤会長寄贈の揮毫を囲んで  
右 久保田校長  
左 佐藤事務局長

最後にりましたが、この度伊藤衆議院議長さんに母校の百周年の記念として「不屈不撓」の揮毫を頂きましたことを皆様にお知らせ申し上げますと共に、在京古高同窓会の皆様の母校への変わらぬご支援に衷心より感謝申し上げます。新年のご挨拶と致します。



# 本部同窓会・学校近況



## 新年を迎えて

古高同窓会会長 野村喜太郎



伊藤宗一郎  
会長さん  
始め在京古  
高同窓会の  
皆様方、古高

を案しながら新年を迎えたことと推察致して居ります。

母校に於いては、年頭の文化活動センター。当初計画より規模縮小し、内部設備をカットしてあります。が、角二階建、総面積六二五・二五平方メートルがやっと完成しました。去る十二月十一日協賛会関係の方々、在校生の参列を得て落成式を行うことが出来ました。先に県に造っていただいた第二体育館と並んで共に母校文武両道の教育活動の充実、発展に寄与すること間違いなくお陰様です。

事業のしめくりとして百周年記念事業に賛助ご寄付下された同窓生約三四〇〇名(多いか少ないかは皆さんのご判断で)の方々に年末から年始にかけ事務局より完成写真印刷の葉書で、御礼状差し上げてます。もうお手元に届いている頃です。在京古高同窓会からは支部としても特別寄付をいただき厚く御礼申し上げます。百周年を契機に同窓生の意識も昂り、先に松島支部が誕生し、又十二月六日には色麻支部が完成されました。多くの支部の活動が母校、同窓会の発展、在校生へのよい刺激となること信じ喜ばしいことです。

今後共同窓会並に母校に対しご支援激励を賜ります様お願いし、

在京古高同窓会の発展をお祈り致します。

## 同窓会活動の近況

古高同窓会事務局長 佐藤 彰



在京古高同窓会の皆様には、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

一昨年は、母校百周年の大きな節目を迎えるにあたり、同窓生の皆様から記念事業に対し、温かいご賛同とご支援を頂き、誠に有り難うございました。昨年の三月十六日に起工式を行い、建設中の仮称「文化活動センター」も予定通りの工期で完成し、九月二十八日施工業者と協賛会の間で引き渡しと説明会が行われました。その後、協賛会より県への寄付採納手続きを済ませ、施設の使用を開始しました。

今後は古高教育のモットーである「文武両道」「全人教育」の文化、芸術分野育成のための施設として、演劇・音楽の日常練習の場として、大いに活用されるものと期待しています。同窓会をはじめ関係団体が一丸となって進めてまいりました「文化活動センター」が落成したことで、記念事業に区切りをつけるため、協賛会、同窓会、PTA、学校の四者合同で規模を縮小し、左記により落成式を行いました。

とき 平成十年十二月十一日(金) ところ 文化部活動センター

落成式 一五三〇〜一六〇〇  
記念演奏会 一六〇〇〜一七〇〇  
祝賀会 一七三〇〜一九三〇  
会場 ロイヤルホテル  
会費 五〇〇〇円

また、完成した文化部活動センターの写真をはがきにし、落成のご報告を兼ね、母校を想い多大のご協力とご支援を賜りました同窓生お一人、お一人にお礼の挨拶を昨年十二月中旬に発送を終了、一月十日(日)に予定している同窓会新年会の準備も合わせて進めました。

また、百周年記念式典では、松本慶蔵氏より「国際人たる自覚」の演題でご講演を頂きましたが、氏の母校と後輩を思う情熱あふれるひとことひとことが、会場一杯に伝わり、感動的だったことを思うと氏の講演内容を小冊子にし、これから入学してくる新一年生には是非読ませたいものだという黒羽氏(中四七回卒)からの強い要望がありました。事務局では、この要望を受け入れ、二月中には完成の予定で一千部を発注してあります。ご希望の同窓生にもお配りできるようにしたいと思っています。

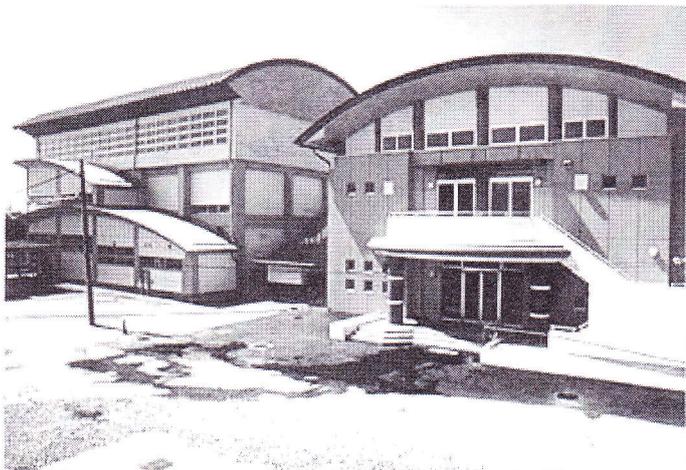
今後とも、変わらぬご指導、ご鞭撻を頂きますようお願い申し上げます。同窓会本部事務局の近況報告とします。



## 完成した「凌雲文化センター」と第二体育館

写真左側の建物が一昨年完成した第二体育館で、一階が柔道場、二階を卓球場として使用しています。また、右側の建物が昨年9月に完成した文化センターで、一階が吹奏楽部とマンドリン部、二階にはステージと絨毯敷きの棧敷があり、演劇部が主に使用する予定です。なお、このセンターは他の文化部も使用することができます。第二体育館と文化センターとの間にある小さな建物は外トイレです。(水洗となっています)

この写真は三浦写真館(OB)のご主人から無料で提供して頂きました。



## 宮城県古川高等学校創立100周年記念事業会計報告

平成10年11月30日現在

### 1. 収入の部

単位：千円

項目	当初予算額	発生予算額	収入済額	収入見込額	収入額合計	備 考
記念事業積立金	78,000	99,880	99,885	0	99,885	保護者からの徴収分(借入金30,000円)
同窓生等寄付金	166,500	71,000	70,257	0	70,257	同窓生、親類、縁戚
関係市助成金	20,000	19,700	19,700	0	19,700	大崎1市14町
雑収入	500	500	1,699	0	1,699	御祝儀現金、借入金利息
合計	265,000	191,080	191,541	0	191,541	

### 2. 支出の部

単位：千円

項目	当初予算額	発生予算額	支出済額	支出見込額	支出額合計	備 考
1 記念事業費	255,100	179,600	173,446	4,300	177,746	
文化活動 の建設費	225,000	150,000	151,895	0	151,895	上申請費 設計及び管理委託費
記念式典費	23,700	23,200	20,222	0	20,222	記念式典、祝賀会 記念誌発行等
環境整備費	6,400	6,400	1,329	4,300	5,629	施設設備費・塗装・修繕
日中事務局費	5,900	8,400	6,304	1,000	7,304	給与・福利厚生・印刷費
田子備費	4,000	3,080	2,451	4,040	6,491	土地費・ATM機・落成式 借入金返済(3,000円)
合計	265,000	191,080	182,201	9,340	191,541	

\* 収入済額(191,541千円) 支出済額(182,201千円)=残額(9,340千円)



# 支部だより

## 関西蛭雪会

会長 中鉢 清

謹んで新年のおよろこびを申し上げます

在京古高同窓会のみならず方には、平素何かとご配慮を賜りこのころからお礼を申し上げます。

過般、佐藤事務局長さんから「関西蛭雪会の近況について」の寄稿依頼の電話をいただきましたが、たまたま出張の直前とあって締切日の延期をお願いしたところ、「スペースをあけて待ってるよ」と、こころよく承諾いただきました。寄稿させていただくことになりました。

近くて遠い地域とでも言うんでしょうか、関西在住の同窓生は意

# 学校近況



## 古高の今

生徒指導部教諭 渡邊 勝宏

「質実剛健」「文武両道」を校是とする本校において、クラブ活動はその教育活動の根幹をなすものであります。心や体を鍛える貴重な場であります。感受性豊かな青年期に、どれだけ汗や涙を流せるかが、その人間の人格形成をいかに左右するかは言うまでもありません。

生徒達は、それぞれの夢に向かって真摯に精進し、かつ励んでおりますが、その中であって、サッカー部のこの秋の活躍は特筆に値します。全国高校選手権大会において第三シードの利府高校を破り、創部以来初のベスト4入り

を果たしました。全国大会出場が目前に迫った準決勝・対東北高校戦は、全校生徒九百余名が、新設された仙台スタジアムで熱い声援を送りました。鋭い突破で何度も相手ゴールを襲ったものの、結果的に見事に優勝した東北高校の固い守備の前に、得点を奪うことができず3対0で涙をのみました。ゲームの主導権を握る場面も多々ありましたが、個人技に勝る東北に一步及びませんでした。試合終了後、全身から汗が湧き出した選手達が、ベンチ前で大粒の涙を流し続けた姿には印象深いものがあり、全校生徒が感動を共有できた瞬間でもありました。選手達の汗や涙のその一滴一滴は、ごくわずかなものであります。しかし、一粒の種子が大地に落ち、外に少なく毎年十一月に開催される総会の出席者も十数名とあったところ。在京同窓会の盛衰ぶりに比べれば天地の差ほどといえましよう。それだけに身内だけのうち解けた親睦会といった感がいたします。

恵みをもたらすように、選手達の小さな一滴が生徒諸君の心の中に根付き、希望の大輪の花を咲かせることができたらと思うと、なお一層感慨深いものがあり、また、その若い力に対し期待が湧いてきました。

サッカー準決勝の翌週には、早速その成果があったのか、ラグビー部が新人大会でBブロック(十二人制)ながら優勝、卓球部が新人大会ベスト4の栄誉を得ました。また、本校部員が県代表選手として出場した東北地区囲碁新人大会では、団体優勝となり文化部の活動にも一段と熱がこもってまいりました。

一方、サッカー応援のために割愛した三校時分の授業時間を翌週に七時間目として実施し、技量の持ち主ばかりで、日頃の鍛錬の差をまざまざとみせつけられ、ただただ感服するばかりです。

宴会とゴルフ、和気あいあいのうちに会を終了しましたが、帰途も余韻醒めやらず早速忘年会の企画へと話題が進展したことを付記いたします。

## お願い

七月以降の同期会、運動部OB会開催報告の記事を予定しておりましたが、間に合いませんでした。

開催後、概要を写真共々ご送付いただければありがたいと思います。

(広報委員会)

## 第1回 4校対抗ゴルフコンペ 開かる

11月18日、この時期にしては珍しい20度を越えるポカポカ陽気の下、第1回4校対抗ゴルフコンペが栃木県喜連川CCで開催された。

古川高14名、古川商13名、古川工7名の参加で、個人戦・団体戦が行われ、個人戦では古川商の蓮沼良一、団体戦でも古川商が優勝カップを手にした。

個人戦は新ベリア方式で行われ、団体戦は最少参加チーム古川工7名を基準に各校上位7名のトータルスコアで競われた。

当校は古川商の161点にわずか1点及ばず苦杯を嘗める結果となった。

競技終了後行われたパーティーの席で「会」の名称が公募され当校OBの佐藤公哉氏の提案により「古川四葉会」を軸に協議され、ゴルフ用語を採って「古川4パー会」と称し、会長には提案者の同氏が満場の推挙により就任することになった。

今後の運営については、年2回春・秋の開催となる見込み。

来春予定される第2回コンペでは多数の参加を勝ち取り、是非雪辱しようなどと、ゴルフを通じて久々の再会でもあり、パーティーはいつまでも盛り上がった。

幹事 渡邊 将郎 (38年卒)

した。「文武両道」を掲げる本校の新たな取り組みは、生徒達の意気を高揚するばかりでなく、勉学に勤しむべき古高生としての自覚を促す好機にもなりました。

昨今の若者達は、「努力して手に入れるものは貴い」という価値観をダサイと敬遠する傾向にあります。古高生にあつては、「質実剛健」の意味するところをよく咀嚼し、自己実現のための鍛錬を地道に積み続けて欲しいと願いつつ、共に歩んで行こうと決意を新たにしているところ



活躍するサッカー部

# 平成10年度総会報告

在京古高同窓会の平成10年度総会は、七月二十六日(土)の午後二時から「神楽坂エミール」で開催された。

昨年度の好評に因り、同日・同会場開催であった。(開始前の雨はおまけ?)総会次第、九年度事業・決算報告、十年度事業計画・予算については、掲載したのでご覧いただきたい。

総会後の講演は長崎大学名誉教授の松本慶蔵さんに「元気で長生きする健康法」についてお話いただいた。人間は百二十歳まで生きられる、との話に大いに勇気づけられた。

総会に引き続きの懇親会は、気分爽快、健康を祝し、懇談の輪の花が咲いた。

元古川市長三上馨一さんの「杉野目晴貞先生の功績(パネル展)」は、労作でもあり、見応えのある内容であった。

松本・三上の両先輩に感謝。

右上：好評だった松本慶蔵さんの講演  
左上：伊藤会長と三上さん  
下：懇親会場



## 平成10年度定時総会・講演会ならびに懇親会次第

【総会の部】(14:00-14:15)	司会	佐々木 武 彦 S35年
1.開会宣言	(司会)	
2.校歌斉唱	指揮	山 英 洋 S45年
3.会長挨拶	会長	伊 藤 宗 一郎 S16年
4.議案審議	議長	佐 藤 廣 S29年
第1号議案 平成9年度活動報告承認の件		
第2号議案 平成9年度決算報告承認の件		
監査報告	監事	青 沼 康 男 S19年
第3号議案 平成10年度活動計画承認の件		
第4号議案 平成10年度予算案承認の件		
第5号議案 監事追加選任案承認の件		
5.閉会宣言	(司会)	
【講演の部】(14:20-15:10)	司会	佐々木 武 彦 S35年
1.講演開会宣言	(司会)	
2.講演者紹介	顧問	半 田 實 S22年
3.演題 「元気で長生きする健康法」 (誰も気がつかない体の老化とその予防)		
4.講師 松 本 慶 蔵 氏 (古中S22年・長崎大学名誉教授)		
5.講演閉会宣言	(司会)	
【懇親会の部】(15:20-17:30)	司会	渡 辺 将 郎 S38年 高 橋 修 一 S44年 亀 井 明 S51年
1.懇親会開会宣言	(司会)	
2.挨拶	会長	伊 藤 宗 一郎 S16年
3.来賓紹介	(司会)	
4.来賓挨拶	本 部 会 長 古 川 会 長 学 校 長	野 村 喜 太郎 氏 久 保 田 齊 氏
5.乾 杯	幹 事	伊 藤 守 治 S 9年
6.懇 談		
7.スピーチ		
8.校歌・応援歌	指揮	菅 原 博 之 S51年
9.閉会の挨拶	副会長	春 田 祐 輔 S27年
10.閉会宣言(解散)	(司会)	

<第2号議案> 平成9年度 決算報告

<第1号議案> 平成9年度 活動報告

### <収入の部>

自 平成 9年 6月 1日  
至 平成10年 5月31日

科 目	決 算 額 (円)	予 算 額 (円)	増 減 △	備 考
年 会 費	871,000	1,200,000	△ 329,000	435.5口 (前年548.1) 前年比: △225,000減
特 別 会 費	1,480,000	1,920,000	△ 440,000	総 会 80名 640,000- 新年度105名 840,000-
広 告 料	504,000	500,000	4,000	19号 158,000- 20号 346,000-
寄 付・祝 儀 金	224,497	300,000	△ 75,503	新年会戻り分算入 (125,497-)
雑 収 入	1,724	7,000	△ 5,276	受取利息
収 入 計	3,081,221	3,927,000	△ 845,779	
前 期 繰 越 金	4,245,390	4,245,390	0	
合 計	7,326,611	8,172,390	△ 845,779	

### <支出の部>

科 目	決 算 額 (円)	予 算 額 (円)	増 減 △	備 考
会 議 費	1,710,791	1,830,000	△ 119,209	総 会 693,346- 新年会 745,961-
印 刷 費	703,174	700,000	3,174	全額(19-20号)総会資料 (名簿・封筒・振込通知 名簿作成用シール) 141,208-
事 務 用 品 費	297,513	200,000	97,513	
事 務 所 経 費	45,900	50,000	△ 4,100	
通 信 費	591,815	700,000	△ 108,185	
広 告 宣 伝 費	50,400	30,000	20,400	河北新報 31,500- 大崎タイムス 17,250-
慶 弔 費	251,025	250,000	1,025	
組 織 強 化 費	279,886	300,000	20,114	
本 会 特 別 支 出	1,054,960	1,050,000	4,960	百周年記念金1,000,000- 東京出張費 54,740-
雑 費	95,797	100,000	△ 4,203	
支 出 計	5,081,261	5,210,000	△ 128,739	
次 期 繰 越 金	2,245,350	2,962,390	△ 717,040	
合 計	7,326,611	8,172,390	△ 845,779	

会計監査の結果、以上の報告書の通り間違いありませんでした。

平成10年7月14日 監 事 青 沼 康 男

平成9年6月1日～平成10年5月31日

年月日	活 動 内 容	参加人数	場 所
H9. 6.14	SOSこどもの村訪問 (総数20名)	15名	八王子市裏高尾町
6.28	第1回 役員会	19名	信陵会館
7. 5	会報19号・総会案内発送	5名	〃
7.19	事業委員会及び事務局・委員長会	8名	神楽坂エミール
7.26	平成9年度定時総会・講演会・懇親会 講 師 大場和男氏 (S38年卒)	88名	〃
8.10	同窓会本部総会出席 (春田副会長・佐藤事務局長)	2名	古川市
8.21	第2回 役員会・総会反省会	20名	うしお荘
9.15	事務局・委員長会	5名	信陵会館
10. 3	第3回 役員会	21名	〃
11. 6	古高100周年記念式典出席	14名	古川高校
11. 7	4校合同幹事会	4名	古川市東京事務所
11.15	広報委員会-会報発行準備会	5名	信陵会館
12. 7	在仙古高同窓会総会出席 (春田副会長・佐藤事務局長)	2名	仙台市
12.14	広報委員会-会報発行準備会	7名	信陵会館
12.28	会報20号・新年会案内発送	9名	〃
H10.1.10	第4回 役員会	13名	〃
1.21	4校合同幹事会	5名	古川市東京事務所
1.25	古川市内4校合同新年会 講 師 中川俊一氏 (古川市長)	110名	上野精養軒
2. 6	4校合同新年会反省会	6名	古川市東京事務所
2.27	古川高校・東京出張賞授与式 (高橋副会長・佐藤事務局長)	2名	古川高校
3. 3	事務局・委員長会	5名	古川市東京事務所
3.10	第5回 役員会	24名	〃
4.10	広報委員会-会報発行準備会	4名	〃
5. 7	事務局・委員長会	6名	〃
5.21	第6回 役員会	17名	〃

<第4号議案> 平成10年度 予算案

<第3号議案> 平成10年度 活動計画案

<収入の部>

自 平成10年 6月 1日  
至 平成11年 5月31日

Table with 5 columns: 科目, 予算額 (円), 前年実績額 (円), 増減△, 備考. Rows include 年会費, 特別会費, 広告料, etc.

<支出の部>

Table with 5 columns: 科目, 予算額 (円), 前年実績額 (円), 増減△, 備考. Rows include 会議費, 印刷費, 事務用品費, etc.

平成10年6月1日～平成11年5月31日

Table with 4 columns: 年月日, 活動内容, 参加者数, 場所. Lists activities like 4校合同新年会幹事会, 総会案内及び会報21号発送, etc.

出席者一覽

(來賓)

- 松本慶蔵 (S22) 久保田 斎 (学校長) 野村喜太郎 (S18) 佐藤 彰 (S33)
三浦 良 (S24) 中鉢 清 (S29) 佐藤吉昭 (S40)

(会員)

- 昭和4年卒: 三上馨一
昭和5年卒: 永沢幸七
昭和7年卒: 杉下卯兵衛
昭和8年卒: 及川八郎
昭和9年卒: 伊藤守治
昭和12年卒: 佐藤恂一
昭和14年卒: 相原昇信
昭和16年卒: 伊藤宗一郎
昭和17年卒: 高橋淳夫
昭和18年卒: 佐藤幸雄
昭和19年卒: 青沼康男
昭和20年卒: 青野昭男
昭和22年卒: 倉澤健治郎
昭和23年卒: 菅 昇吉
昭和24年卒: 我孫子静雄
昭和25年卒: 工藤英三郎
昭和26年卒: 遠藤 惇
昭和27年卒: 谷地森 税
昭和28年卒: 今野 健
昭和29年卒: 尾 梶 健
昭和29年卒: 小川春男
昭和30年卒: 尾崎光彦
昭和31年卒: 浅野平男
昭和32年卒: 相沢菊男
昭和33年卒: 佐々木光一
昭和34年卒: 後藤 孝
昭和35年卒: 阿部信雄
昭和36年卒: 菅野俊次
昭和37年卒: 千坂孝夫
昭和38年卒: 阿部重人
昭和40年卒: 浅野仁也
昭和42年卒: 佐々木昭美
昭和43年卒: 佐々木 博
昭和44年卒: 伊澤正雄
昭和45年卒: 畠山英洋
昭和46年卒: 細川三男
昭和49年卒: 黒崎亮三
昭和51年卒: 佐々木強悦
昭和52年卒: 山崎敏幸
昭和53年卒: 浅野正則
昭和54年卒: 木幡延彦
昭和55年卒: 亀井 明
昭和62年卒: 青沼裕之

# 会員による自由投稿欄

## 学徒出陣

16年卒 福島 光男

国立競技場(元の明治神宮外苑競技場)千駄ヶ谷門内に「出陣学徒壮行の地」と彫られた記念碑がある。碑文は以下の如くである。

### 由来

昭和十八年(一九四三)十月二日、勅令により在学徴集延期臨時特例が公布され、全国の大学・高等学校・専門学校・文系系学生・生徒の徴兵猶予が停止された。この非常措置により同年十二月、約十万人の学徒がペンを捨てて剣を執り、戦場へ赴くことになった。世にいう「学徒出陣」である。

全国各地で行われた出陣行事と並んで、この年十月二十一日、この元明治神宮外苑競技場においては、文部省主催の下に東京周辺七十七校が参加して「出陣学徒壮行会」が挙行された。折からの秋雨をついて分列行進する出陣学徒、スタンドを埋め尽くした後輩、女子学生。征く者と送る者が一体となつて、しばしあたりは感動に包まれ、ラジオ、新聞、ニュース映画はこぞつてその実況を報道した。翌十九年にはさらに徴兵適齢の引き下げにより、残った文

系科男子及び女子学生も軍隊にあるいは戦時生産に動員され、学園から人影が絶えた。時流れて半世紀。今、学徒出陣五十周年を迎えるに当たり、学業半ばにして陸に海に空に、征つて還らなかつた友の胸中を思い、生き残つた我ら一同ここに「出陣学徒壮行の地」由来を記して、次代を担う内外の若き世代にこの歴史的事実を伝え、永遠の平和を祈念するものである。

系科男子及び女子学生も軍隊にあるいは戦時生産に動員され、学園から人影が絶えた。時流れて半世紀。今、学徒出陣五十周年を迎えるに当たり、学業半ばにして陸に海に空に、征つて還らなかつた友の胸中を思い、生き残つた我ら一同ここに「出陣学徒壮行の地」由来を記して、次代を担う内外の若き世代にこの歴史的事実を伝え、永遠の平和を祈念するものである。

その日、私も出陣学徒の一人として、その中に居た。スタンドを埋めた数万人の割れるような大歓声は五十五年を経た今も尚、耳の中に残る。戦場に散つた我が友に会える日も、そう遠い先のことではない年齢に達した。

### 出陣学徒有志

平成五年(一九九三)十月二十一日 学徒出陣五十周年を記念して

松戸市岩瀬六二二一九

## 六十五才の手習い

27年卒 中森 高

サラリーマンなら、必ず訪れる退職後の第二の人生を如何に幸せに過ごすか、誰しも重大な関心事である。

小生も仕事との関係で今年五月、六十六才の誕生日を目前に、永年勤めた会社を退き、第二の人生を歩み始めている。

数年前、ある福祉講演会の話であったが、職業別に最も長命を保っているのは画家との由。その背景には画家は手先を使い、頭で考え、時間、人間関係、束縛され

ず、自分の好きなことをやれる日々を過ごすことが出来るからとのこと。

二年前からは仕事も閑職となり、それを機に地域の交友関係を深めるため、大学の同窓組織・藤沢稲門会の活動に参加することにした。その折、OBの先輩に強く勧誘されたのが、発足間もない、俳句の同好会(はなみ句会)への参加であった。

前記の長命の話が脳裏にちらついておつたので、一念発起、六十五才の手習いとして始めたのが俳句作りと書の勉強である。

会員は往年の女子学生六名を加え二十五名、なかには芥川賞受賞作家宮原昭夫兄もおり、年齢的には小生は中位、七十才を過ぎた句友は六名もおり、毎月一回開催の句会に皆さん張り切っている。散会后反省会と称し、杯を交わしながら談論するのも楽しみの一つです。

小生は旧古中三年の時、文芸部に在部し、一年間先輩諸兄から句作りの真似事の手解きを受けたこともあり、俳句作りにはあまり抵抗感がなく参加することが出来た。自分なりの真の句を作るには、最低五十年位要するらしく、今更うまい俳句を作ろうとは思わない。脳細胞の活性化(ボケ防止)の一助になればと努めている。

書の方は日本書道協会の通信教育を受講中であるが、地元文化講座等への参加を考えている。浄書する時、明鏡止水の心境になり、心静まるものがなよりの利点です。

が経とうとしているが、現在の心境は来し方を振り返って見て、今が何よりも幸せな時期ではないかとつくづく感じている。

時間の束縛、仕事の責務、人間関係の軋轢等から解放され、自分の好きなことで日々を過ごすことが出来る。

只、必須の付帯条件は健康であること。残り十年以上は現在の心境で過ごすすればと念願している。

最後に拙い俳句を披露しますのでご覧下さい。

飲み合えば訛なつかし年忘  
花冷えやいよいよ吾の余生なる  
職退きて日向ほこする気になりぬ  
老鶯の遠音のあとや川の音  
みちのくの初穂の風や雲の峰

## イタリア、カンツォーネの旅

39年卒 上野 正司

平成八年九月、二十八年勤めたさくら銀行を退職し、晴れて自由の身になった。そこで永年のあこがれの国であったイタリアに妻と一緒に行くことにした。南イタリアとシチリアの旅で三十人ほどのツアー旅行であった。

なぜイタリアか?それは私がカンツォーネに志し、その歌い手だからである。人呼んで「宮城県の寒村が生んだ世紀のテノール」と言つたところである。小学生のあたりからその美しい歌声に魅せられ唱つてはいたが、その自信を決定的にしたのは高校の音楽の時間、歌唱のテストがあり、庄司先

た。丁度その頃売り出し中の五十嵐喜芳が古川市に来て、古校の講堂で唱うという事件が起きた。それを庄司先生が録音し、我々に聞かせてくれた。その時の歌は「マンマ」であったが本場にすこつた。今でも私は五十嵐喜芳の弟子だと思つている。私は鳴子町の中山平の出身であるが、それから毎日山間の小道を声を張り上げてカンツォーネを歌いながら歩くということになった。

さて第一回渡航は平成八年十二月、やつとナポリに着いた。そのホテルでコーヒを飲んでいると男の人がピアノを弾いている。それに合わせて小声で歌っている。その人が手招きをしてこちらに来て歌えという。そこで歌つたのが「オーソレミオ」で、記念すべきイタリアデビューであった。十人程の外国人から拍手と「ブラボー」という讃辞をいただいた。庄巻は次のシチリア島のタオルミーナにあるギリシャ時代の古代劇場で歌つた時である。ツアーの中に押しの強い人がいて「上野さん、ここで歌わなければダメだ」と言つてきかない。見学者の承諾までとつてくれて遂に歌う事になった。曲は「帰れソレントへ」と「オーソレミオ」であったが、最後「スタンフロンテアター」と歌いあげる頃は感激の余り、足に震えがきてしまった。ドイツ人と日本人のツアーの旅行者達から「ブラボー、アンコール」の声を援をいただき、いつ死んでもいいような至福の経験をした。次はカンツォーネナイナシヨで女性の添乗員さんが劇場に話をしてくれ「マンマ」を歌うことになり、こ

# 会員による自由投稿欄

「こどもやんやの喝采をうけた。」

次は第二回渡航であるが、近所の友人夫婦と妻の四人でももののはずみからまたイタリアに行くことになった。この時は、「ベニスのゴンドラの上で歌いたい」と心に期すところがあつた。いやそのベニスの素晴らしさ、美しさ、ついにその時がやって来た。ところがイタリア人船頭、ゴンドラリーエに英語が通じない。そこで私は「ゴンドラリーエ、カンターレミ、カンツォーネ、ナポレターナ」と言ったら見事に通じ、隣のゴンドラに乗っている楽団に伴奏までつけさせてくれた。

そこではやっぱり「帰れソレントへ」と「オーソレミオ」だった。夕暮れのビルの谷間のベニスの運河で歌っていると、またしても至福の想いを感じ、一生に悔いはないと想うのであつた。当然チップも充分はずんだのであります。

「こまでくると私の名声もツアーに知れ渡り、次の「カンツォーネ デイナーション」でまたまた歌うことになった。前回は楽団が下りてきて舞台の下で歌ったが、今度は舞台上で歌えという。歌はやっぱり「帰れソレントへ」であつた。

ここでも満員のツアーから最大の拍手をいただき、イタリア人歌手からも「あなたはルチアーノ パロッティだ」などとお世辞を言われた。

最後に歌ったのは我らツアー二十人程が最後の晚餐を食べたローマの古代遺跡を利用したレストランであつた。そこで「アリベデルチェローマ」「海にこよ」「サンタルチア」遙かなるサンタルチアの四曲を歌い、納めとした。添乗員が言うにはこのような事は日本人初のものであり、驚くべき事だという事だつた。私も音大の出身でもなく、古高という地味なまた中山平という田舎の出身である自分がこのように大それた事をしたという事にただ驚いている。また母校の会合などで希望があれば歌いたいと思っている。

## 下町浅草食べ歩き

20年卒 横山 榮治

昭和二十九年三月に東京に出てきて以来四十数年、会社が三ノ輪近くにありましたので、週に一度は浅草に行き、主に老舗といわれる店を中心に数多く食べ歩きました。近頃では月に一度位になりましたが何となく浅草が好きで通っております。最近では食べ物雑誌、本そしてテレビ等で多く紹介されておりますのでご存じの方も多々と思ひますが、私なりに味の感触で紹介いたします。お値段が高ければ美味しいのは当たり前だと思ひますので、まああの値段で美味しいという様な、あくまでも私の感触であります。主に和食

系統で近頃流行のフレンチ系中華系又高級料亭等、又各店のコメントも紙面の関係上省略しました。

天ぷら  
大黒家、江戸ッ子、中清、三定、金泉、天健、天藤、葵丸進、満さる、つるや、土手の伊勢屋  
日本そば

並木藪蕎麦、尾張屋、大黒屋、弁天、ももくり庵、長浦、翁そば、十和田、あさくさ長屋  
とんかつ  
喜多八、ゆたか、桃太郎、すきうなぎ・どぜう

小柳、やっこ、初小川、前川、川松、駒形どぜう、飯田屋、つるや  
釜めし・おでん  
釜めし春、二葉、江戸定、大多福、丸太格子

寿司  
美家古鮓、紀文、すし栄、寿司初、寿司清、ひかり寿司、金大樓鮓本店

洋食  
大坂屋、ヨシカミ、アリゾナ、大宮  
すき焼き  
浅草今半、ちんや、米久、松喜

浅草にお出かけの折り、雷門前に台東区立浅草文化観光センターがあり、浅草のマップがありますので是非ご利用ください。以上思いつくまま書きましたが、まだまだたくさん下町情緒あふれるいいお店がたくさんあります。又、上野・神田・日本橋等区内には美味しいお店がたくさんありますので、機会を見て次回にいたします。尚、ご不明の点がありましたら小生宅まで電話下さい。

二一三六五九一六一五七  
(編集注:原稿には店の所在地、電話番号が記されておりましたが、紙面の都合上、店名のみ掲載とさせていただきます。)

## 【特別寄稿】

### 大崎大学の栄光を取り戻すために

旧古中28年回卒 三上 馨一

私が夏の東京の古高同窓会に出席させて頂いたのは、私が古川市長に当選した昭和四十七年唯一度だけでした。

終戦後の混乱期に、昭和二十一年から二十六年間の只五年、有楽町にあった食糧庁課長補佐と東京食糧事務所次長として、東京都人口500万人時代の食糧対策でバタバタしていた時代でしたから、東京同窓会があつたかどうか判りませんでした。

伊藤宗一郎会長とも血縁の中ですが、吉野信次大先輩のところまで、吉野さんから、読売新聞の青年記者時代に初めて紹介されて、食糧庁まで取材車で送ってもらったこともありました。

さて、今回の東京同窓会に三十年振りに出席させて頂いたのは、昨春秋に行われた母校創立百周年記念式典に当たり、かつて大崎大学として、自他共に誇った栄光が、現役の高生のみならず、同窓生にも奮起していただくために、古高百年の歴史の中で母校の盛衰に最も関心と情熱を持った北大学長三期十二年、その後も北海道開発特別功労者として、又、戦後の科学技術会議のリーダーとし

て今日の日本経済大国とまで仕上げた科学技術者であり、教育者として日本ユネスコ委員会会長として活躍した後も戦後の大学紛争の大事件も心血を注ぎ見事に解決して、大学の諸問題は「北大の杉野目に聞け」とまで言われた力量を持った我が母校の生んだ先輩を理解して頂くための私の手作りのパネル展をご覧頂き、古高大崎大学の栄光を取り戻すため、古高在京同窓会のご理解を頂くためであります。

どうぞ、視力が不自由ですが、米寿の老いの一徹とご免お願ひ下さい。

なお、古中・古高百年史(二三八頁〜二三九頁)に杉野目文庫が紹介されております。この文庫は、杉野目先生没後二年目に佐々君報恩会の佐々木行樹先輩と札幌在住の近藤鏡四郎(アイヌ音楽家)と私、三人が発起人となり母校図書館に設置させて頂いてあります。

(古高生の応援歌など若もの達の声が毎日聞こえる我が家にて、  
平成十年十二月四日記)



# 欄 稿 投 由 自 による 員 会

国鉄入社後六年間通じた仙台と盛岡を後にして東京へ出てきたのは、昭和三十七年三月であった。丸の内一丁目一番地、東京駅のまん前にある国鉄本社総裁室秘書課勤務となったのである。当時の国鉄総裁は十河信二という偉い立派な人であった。それをとりまく人々も、今迄にない威厳があつてすごい緊張感のある勤務となった。

にとつては、神経をすり減らす毎日でもあつた。東北出身者のほどんではない中で負けてはいられないという気負いもあつて、表向きはなんとかこなしていたかもしれない。しかし、そんなとき新橋の「酔仙」という居酒屋で古中同窓会が開催されているという話が聞こえて来た。いろいろ探るうちに私もそこに出席できるようになつたのは昭和四十年を過ぎてからだつたと思ひます。当時の同窓会は、有志の集まりという感じで、会費も千円台で北浦太一先輩（大正十四年卒）が会長で、狭い畳敷きの居酒屋の一郭に二十人位の人が集まつて開催されておりました。特にセレモノではなく、自己紹介と近況報告があつて、あとは「元気にやつてつか」「頑張れよ」という励ましの言葉をいただきながらうま酒に酔いしれるという内容だつたように思います。

そこに発生したのが三河島事故（二十七年五月）である。さらに追い打ちをかけるように翌年には鶴見事故が発生した。どちらも百八十人近い死者が生じ世界中に報道された。本社中で一番年若い小生は、それこそ走り回つた。それが終わつてやれやれと思う間もなく、翌三十九年は東海道新幹線開業であり、この祝典行事は天皇陛下をお迎えするなど当時の国鉄の全力を挙げての歴史的行事となつた。そういうなかで新人の私は、生涯で味わえない幸運な体験をすることになつたのであるが、しかし華やかななか田舎生活の長かつた小生

当時のニッポンは、新幹線開業やオリンピック開催に湧いており上昇気運にありましたが、私としては、遠く東北から出てきて誰も頼る人のいないなかで、いろいろ試されながら弱気になりがちであつたときに、郷里の母校の先輩と一緒に酒を飲んで激励していただけでいいつたのではないかと思つております。

今日同窓会活動は、全国的に活発に動いております。当在京古高同窓会も全国水準のトップクラスの活動をしています。しかしその内実をよく見渡してみるときに将来に向けてもう少し「ふとさと感覚」を育て、とも必要

ではないかと考えております。同窓会の基本は、「ふる里」「母校」を共有した者達の今日に至るエネルギーを再確認し、そこから更なるお互いの飛躍と永遠なるつながりを確認する場であると思ひます。

同窓会活動を進めてゆくなかで最も嫌われるのが、年寄りの説教と自慢話が挙げられます。しかし、当会においては、一寸見当たらないのではないかという気がします。年寄りの年令とはどこから



同窓会活動に ついての一考察  
27年卒 春田 紘輔

なか、私もそういう年令の仲間にあつたとしておりますので特に気をつけておつもりです。それから次に嫌がられるのは、おしつけ商売であります。これも全くないとは言いませんが、程度問題であると思ひます。

在学中の同級生同志をみても多種多様な人達がありますが、まして五十年次を一緒にした同窓会は、人生のすべてがあつておかしくありません。また、その人生とて必ずしも納得している人ばかりとは限りません。そういう多種多様な人生を自由

- 一、特定の思想、宗教に影響されないこと
- 二、個人的利害をもちこまないこと
- 三、母校に対する感謝の気持ちをもっていること
- 四、母校を共有した人達の相互の利益を考へることができること
- 五、母校ときくと血が騒ぎ、肉がおどる感激性が少しでもあること

さらに特に追加したいのは、世話人の存在であります。世話人は原則として会から何等の利益も受けないこととされております。所謂ボランティアであります。出席される方々もそういう信頼があるからであると思ひます。大変酷ではあります。会への世話人に対する信頼が失われたら会の維持はできないと思ひます。従つて会の世話人の人格と個性は特に厳しく求められます。副会長の立場にありますが私が言うのは一寸おこがましいと思ひますが、幸いにして当会については、現状をみていただければ、お分かりいただけるものと確信しております。ところが会の現状と今後の目標についてですが、二十人の会員に対して総会席者が、百人前後であるという

現実であります。これはどういう集まりであつても止むを得ないことと思ひますが、会の存在を素直に認めず、価値観が一緒にならない人達がいることは否定できません。またそうでなくても健康問題等個人的事情でやむなく参加できない人もおられることと思ひます。前者の方々についてはいろいろ背景があることと思ひますが、その理由の一つに、そういう人達の現状と母校の関係がうまく結びつかないところにあるのではないかと思ひます。従つてこういう方々に対しては、素通りさせていただくのがお互いのためではないかと思ひます。そこでこれからの活動の目標として、会の存在を知らない人々と、知つていても「きつかけ」がないため出そびれている人に対しては会として全力を挙げてアピールする必要があると思ひます。

次に会がより発展するための一つの条件として、会は会員に対して何をやってくれるのかという注文が先行したのではだめです。そういう注文を受ける世話人もまた同じ会員であります。そこをよく考へていただいて、私は会のため何ができるかという姿勢をだしていたことが会の発展に必要なではないかと思ひます。

在京古高同窓会は、優れた人材が一杯おりますことは皆さん御承知の通りであります。さきに挙げた五つの条件を備えられた方が次々とこの事業に参画されることによつて、より大きく発展し、母校もまた私達の動向に少しでもよい方向に刺激されるであろうことを期待しております。



美しい時代へ——東急グループ

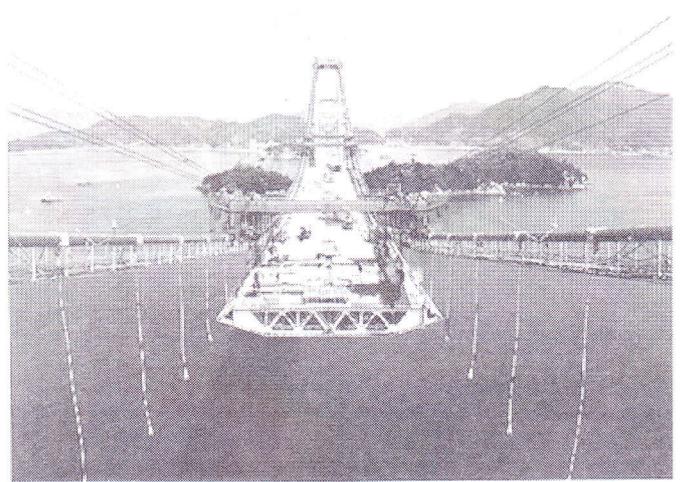
# 株式会社 東急レクリエーション

取締役社長 佐藤 進  
(昭和26年卒業)



港北とうきゅうS.C/109シネマズ港北(平成10年4月オープン)

東京都渋谷区桜丘町2番9号  
☎ 03(3462)8855



技術と品質で21世紀に飛翔する

## 株式会社 宮地鐵工所

代表取締役会長 遠山仁一 (S.25卒)  
東京都中央区日本橋小伝馬町15番18号

## 税理士 青沼康男

不動産鑑定士 (昭和19年卒)

〒108 東京都港区芝4-6-16 ライオンズ三田805-0014  
TEL 03-3452-2004  
FAX 03-5476-8006

## 「よくわかる環境問題」 発刊

定価1600円

出版社 (株) オフィストゥーワン  
TEL 03-3988-3911

税理士 渡辺 三男 (昭和18年卒)

〒123 東京都足立区西新井本町1-16-12-510-0845  
TEL 03-3896-2707  
FAX 03-3896-2284

“人と企業の絆を求めて!!”

## パルスタッフ株式会社

代表取締役 渡邊 道雄  
会 長  
S28年卒 (鹿島台町)

本社 東京都杉並区高円寺北1-4-10  
TEL 03-5343-5821

立川営業所 (0425-28-8585) 神奈川営業所 (0462-77-0791) 郡山営業所 (0249-21-0990)

自民 + 自由 = 不自由

## 積水工業株式会社

空調・衛生・電気工事

S28卒 取締役会長 金子 康

本社 目黒 (03) 3793-5711 仙台支店 (022) 235-7009

子供は未来の宝、大きく育てよう  
福祉・子育て相談 (秘密厳守)  
いつでもどうぞ!!!

## 社会福祉法人 エスオーエスこどもの村

理事長 佐々木武麿 (昭和35年卒)

〒193-0841 東京都八王子市裏高尾町991  
TEL 0426-61-8733 FAX 0426-69-5032

日曜大工園芸用品卸 貸ビル、貸マンション業

## 株式会社 佐々木商事

代表取締役 佐々木 光一路

〒144 東京都大田区南蒲田1-1-21 佐々木ビル  
-0035 第一京浜国道沿い京急蒲田駅前  
卸売部 電話 (3739) 2468  
FAX (3739) 7234  
不動産部 貸ビル・貸マンション  
HOT Line 030 2026393



**Century 21**  
HOUSING CENTER

[1995年度] 店舗 世界総合第2位・日本総合第1位  
[1997年度] 個人 世界総合第2位・日本総合第1位  
設計/一級建築士事務所東京都知事登録第42734号  
建設業/東京都知事許可(特-9)第107899号  
宅建業/東京都知事免許(6)第41620号  
社団法人住宅産業開発協会会員  
古高47年卒 代表取締役 小嶋 進

100m<sup>2</sup>マンションリーディング企業

ハウジングセンター

■株主/安田信託銀行株式会社、株式会社三和銀行  
オリックス・キャピタル株式会社、新日本証券株式会社 他

株式会社ハウジングセンター

〒154-0005 東京都世田谷区三宿1-13-4

☎ 03-5430-0021

センチュリー21の加盟店はすべて独立・自営です。



情報技術で世界を結ぶ

**Anritsu**

アンリツ株式会社

取締役社長 中川 裕雄  
(昭和28年卒)

本社: 東京都港区南麻布5-10-27 〒106-8570  
厚木事務所: 神奈川県厚木市恩名1800 〒243-0032

## 森谷建設株式会社

代表取締役 森 谷 侑 一

昭和20年卒

〒336-0923 埼玉県浦和市大字大間木2395  
TEL 048-874-2910

経営経理指導 社会保険 労務管理  
決算記帳代行 会社設立 許可認可申請

経営コンサルタント、社会保険労務士

## 青沼事務所

青沼 行雄 (昭和19年卒)

相模原市麻溝台2丁目6番30号

電話 042-744-0770

携帯電話 090-8686-9140

FAX 042-749-7230

くすり、健康食品のご相談は  
ぜひ当店へ!

## 有限会社 筑波薬品

代表取締役社長 萩沢 法雄 (昭和31年卒)

〒202-0022 東京都保谷市柳沢3-2-45

TEL & FAX 0424-61-9334

ケーヨーは情報化時代の未来を拓くパートナーです。  
文書・図面・写真・音声・映像を簡単にC・D・R・O・Mにします。

データベースの入出力・活用 デジタル変換

コピーサービス 総合印刷 CAD入出力

文字情報入出力 プリペイドカード



データベース作成支援 完成図書・総合複写/印刷

**株式会社 ケーヨー**

代表取締役社長 早坂 清吉 (昭・29年卒)

本社 〒103 東京都中央区日本橋本町4-1-6 TEL03-3242-0191  
横浜支店・千葉支店・八重洲営業所

皆様のお力をお貸しください!

●企業誘致 ●地場産品販路拡大 ●ネットワーク強化 ●情報受発信

## 古川市東京事務所

所長 佐藤 吉昭 (S40卒)

副所長 佐々木 強悦 (S51卒)

主事 熊谷 賢一

台東区上野1-18-11 西楽堂ビル4F (上野松坂屋南館向き)

TEL. 5818-6432 FAX 5818-6431

## 佐藤 啓三

(S40年卒 中新田)

中小企業診断士・ISO審査員・エネルギー管理士



ISO (品質・環境)・技術・経営

コンサルティング・グループ

株式会社 経営技術機構 所属

〒221 横浜市神奈川区新浦島町1-1-25 テクノウェイブ 100-11階  
-0031

TEL 045-451-2561 FAX 045-451-2490

自宅 〒221-0004 横浜市旭区中白根2-22-19

TEL/FAX 045-953-3894

組織委員会

この度、渡辺吉郎さんの後任になりました工藤英三郎でございます。何せ全くの突然であり、未知の事ですが、できる限りの事をやります。どうぞ皆さんのご協力の程を宜しくお願い致します。

さて前任の渡辺さんが七月の同窓会の会報にも載せていましたが、若い人の参入が少ない事、それに住所不明が多すぎる事とありましたが、先日初めて事務所に行った時佐藤事務局長より書類を見せてもらいましたが、私の同級生(二期生)の平成元年作製の名簿を見ても亡くなった同級生、又は転居した同級生などかなりの人数がそのままになっていました。多分これは二期生のみではない事と思えます。それで当面の仕事は名簿の整備ではないかと感じました。

事務局では会報その他を在京の同窓生全員に郵送しているのです。このように不明者や死亡者に送る事は経費の無駄です。担当者は追跡にかなりの苦勞をされたようです。

確かに改善の余地はあると思われませんが、それはこれからの問題です。どうか返信用のハガキが同封されておりましたら速やかに、出欠にかかわらず、住所・氏名・電話を記入の上投函して下さい。

皆さんの協力なくしては何事も進みません。ご理解の上ご協力の程をお願い致します。

連絡もれの方がおりましたら事務局へご一報下さい。

(組織委員長 工藤 英三郎)

事業委員会

「最近の動きから」と「あらためてお願い」

毎年一回の総会、講演会並びに懇親会、そして会報「蛭雪」の年二回発行が在京同窓会活動の中心であります。

加えて、古川市内四校の関東合同新年会が年々盛況を呈しており、方々で反響をよんでおります。今年で六回目を迎える合同新年会は古商がメイン、古高がサブの世話役になります。第一回から第四回まで古高がメインとなり、世話役を続けましたが、昨年からは世話役二校と交代制になりました。

いつもの悩みは講師の選任にあるようで、各校四人ほどで構成している世話人会では、真剣に取り組んでいます。

当会では皆さんが参加できる年一回のイベントを企画、機関誌「蛭雪」で告知、募集していますが、一昨年第一回は八王子の「SOS子ども村」(佐々木武磨さん、S35卒経営)を視察、昨年は一江戸・東京を見て歩こう会を九月二十七日に実施、仙台濠にそつて歩いた雨の初秋でしたが好評でした。昨年は母校創立百周年記念事業として当会として百万円を寄付する一方(母校文化活動センター

十二月十一日竣工)、百周年を機に将来の後輩の励みにと生徒会功労賞「東京蛭雪賞」を制定、母校から喜ばれ、今後も毎年続けることになっていきます。

遅ればせながら、当会では創立

百周年の記念品として「蛭雪パズル」を作成し、昨年の総会出席の方々に配布いたしました。これは母校を偲び、発展を祈り、堂々と襟章に、又はネクタイピンに愛用していただきたい、との願いをこめたものであります。

また今年から「ゴルフ同好会」(世話人・渡辺将郎さん、S38卒)が誕生、蛭雪で募集したところ三十五名の応募がありました。結果、市内四校対抗親善コンペに発展したことは喜ばしいことです。(別記詳報)これを機に多くの同好会の誕生を期待します。

さて、長いこと組織委員長をつとめておられました渡辺吉郎さんが家庭の事情で引退されました。真面目さ、一途さはピカイチであり、当会のご意見番として貴重な存在であっただけに惜しまれてなりません。返信くらいはくれないうかなーとの口ぐせ。ご労苦に拍手を送りたいと思います。

代わって、幸いにも工藤英三郎さん(S25卒)が組織委員長を引き受けて下さいました。渡辺さんのあとをひきついで名簿再編の為に頑張っていたいただきたいと思えます。

約二千人を数える同窓生の皆さん、渡辺さんの嘆き?ではありませんが、年会費納入者約五百人、これが現状です。

同窓会活動はみなさんの協力があれば可能であり、会員名簿の確かさと年会費の納入が肝要であります。残念ながら年会費の納入減少が危惧されています。皆さんの一層のご協力をお願いします。

(事業委員長 佐藤 公哉)

事務局談話室

(一) 今月初めの六月から、事務局に常駐するようになって以来、半年が経ちました。その間、ご連絡や質問などお寄せ頂いたとき、また立ち寄って頂いたとき、なお一層、うれいものであります。

- (二) 主な行事等は次の通りでした。
- 六四 広報委員会
- 六五 四校合同幹事会
- 六七 会報蛭雪と総会案内の発送
- (一、〇〇通・7名で作業)
- 七八 役員会 (21名)
- 七九 四校合同幹事会
- 七〇 総会・講演会・懇親会
- (講師松本慶蔵氏・110名)
- 七八 野球部OB会
- 八九 本部同窓会総会
- 八〇 役員会・反省会 (21名)
- 八五 四校合同幹事会
- 九二七「江戸・東京を見て歩こう会」
- (お茶の水聖橋口に集合
- 雨のため37名が25名に)
- 九〇六 事務局打合せ会 (7名)
- 九一六 四校合同幹事会
- 九二〇 広報委員会
- (会報準備会発足)
- 九二六 古川市内四校対抗ゴルフ大会
- (喜連川CC、古高から14名参加)
- 九三〇 役員会 (19名)
- 落成式
- 九三二 本校「凌雲文化センター」の落成式

(三) 校正時のミステリー?

会報の校正は何人かで行っているのですが、二十一号の「校歌の歌詞について」百年史編纂委員会からご提供頂いた文の中で、「よそうべし」「よそうべく」の文言に「く」の字が入ってしまったもの、年卒の福島光男さんに指摘され

て初めて判ったものであります。ありがたうございました。校正を担当した者誰も知らないと言った。確かに原稿には「く」はない。百年史編纂委員会には申し訳ないことをしてしまいました。改めてお詫び致します。今後はお互いに気を付けたいと肝に銘じております。

(四) 総会時の松本慶蔵氏の講演は、参加者の皆さんにとって大変ためになるお話でした。その講演内容をテープにとつて聞きながら、「手を後ろに振り」「左右に振る」などの体操を毎日実行されている方が居ります。それは23年卒の昔昇さんであります。早速実行されているのはうれしいことです。テープの欲しい方にはダビングしたいと考えています。お申し出下さい。

(五) 渡辺三男さん(18年卒)から著書の「よくわかる環境問題」をご寄贈頂きました。誠にありがとうございました。この本は環境問題に対する蘊蓄を傾けた傑作であり、敬意を表します。詳細(出版社・価格など)は広告をご覧下さい。是非ご購入を頂き、ご一読をお奨め致します。

(事務局長 佐藤 廣)

編集後記

片平さん、尾崎さんに見守られての、良い仕上がりだと自賛している。

自由投稿が多く、作業のし始めから「読ませる紙面」の手応えがあった。又、いつものことながら多く(適量)の広告もいただいた。この二つは基本であり、深く感謝したい。

(千)